

⑤2024年問題への取組みについて

	東北西濃	二興倉庫	SSX	九州西濃	沖縄西濃
新たに取組みした内容(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 最大拘束時間開示 労使ともに時間管理の意識付けとして開示していく 月次で情報共有 三六協定(2023年度)には、「休憩時間協定」「労働時間協定」を作成 個別指導「カウンセリング」対象を残業時間60時間超に変更した 	<ul style="list-style-type: none"> 協力配送会社との連携強化(対象先:21先) 作業時間(入出荷時検品)の短縮 パレットの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働抑制の具体的な取組みとして、「運行乗務員の拘束時間短縮を目的とした運行便の見直しと荷役の分離化」を実施する 運行便の見直しは、長時間拘束の自社運行便に対し、ルート変更・運行距離短縮・便数削減または廃止をすることで拘束時間の抑制を図る 荷役の分離化は、現行乗務員が行っている荷積み荷降ろし作業に作業員を配置し、乗務員は一切作業に携わらないことで、拘束時間の抑制を図る(乗務員が運転に集中できる環境になることで事故防止にも繋がる) 	<p>(2022年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線実時間・時間外100時間超過者ゼロ <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 店内での交番の見直し・コースの偏りや休出を減(前年3月実績)100時間超が9店所24名、80時間超が15店所97名 <p>(2023年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部コース、西・南九州からの関西コースの改善 <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> モーダルシフト、荷役分離などの改善計画を実施 加治木～神明便の業者が運行継続不可のため、途中乗換えが出来る業者に入れ替え(4月から実施) 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早出残業0 残業:40h以内 <p>【取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体で「運行環境改善会議」を月1～2回実施 一部取組みに時間がかかる店所は店所毎にも取組む
効果・実績について	<ul style="list-style-type: none"> 三六協定(2023年度) 10店所中2店所大幅に時間短縮で届出 2店所は変形労働時間2024年実施の3,400時間で届出 時間管理実績 2022年実績では最大拘束時間3,300時間を下回る店所は5店所(10店所) 4店所においても最大拘束時間3,400時間を下回る 業容として路線用車をしている1店所は最大拘束時間3,500時間…本年度の課題とする 	<ul style="list-style-type: none"> 4先へのヒアリング実施(残り17先)⇒今後の動向確認を継続 作業タイムフローの再確認 業務改善会議の実施により、作業負担増加に対する対策を検討…残業時間削減⇒荷待ち時間の短縮へ繋げる(平準化) パレットへの積み替えの削減⇒お客様(荷主)への協力依頼…バラ積減 	<ul style="list-style-type: none"> 運行便数の変更 熊谷航空営業所⇄北関東貨物センター間の自社便を、現行1日2往復から1往復に削減を実施する。5月より開始で月間10時間の削減見込み 荷役の分離化 足立営業所⇄各貨物センター間の自社便乗務員に対し、現行18時出社を19時に変更し、時間外労働を1時間抑制(出発20時発は変わらず)1月より実施で13時間の削減実績(継続中) <p>上記の取組みを手始めに、今後全自社便の見直しを図る(次の段階として静岡地区の自社便を検討中)</p>	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 100時間超…ゼロ(3か月連続) 80時間超…7店所19名 <p>※100時間超の撲滅については定着してきたと判断、今期より「80時間超過の撲滅」にバーを引き上げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早出残業は、出勤時間の調整及び出勤時間15分前出社へ変更し、早出残業者は0となった(2023年2月より) 残業40h以内の取組み ①ドライバー採用 <ul style="list-style-type: none"> 時給の底上げで応募者を増やす ②うるま(営)SD4名が午後の航空便引取車両の削減予定 <ul style="list-style-type: none"> 中継車両として4t車×1台で集約 ▲3台・4.5hの異動時間短縮(1台当たり往復1.5h×3台=4.5h削減) 2023年5月スタート予定